

● 第9回野外見学会のご報告 ●

川澤 啓三

1998年11月15日（日）9時10分、奥福井バス停に集合、その数30余名。会長の挨拶のあと、吉倉先生より今日の見どころなどを中心にお話を伺う。この地域には、中生代下部白亜系や古生代のシルル・デボン系の流紋岩質凝灰岩（この中から近年放散虫化石が検出されているとのこと）が見られるし、また鴻の森北面に大規模に露出している蛇紋岩が黒瀬川亜帯（以前には秩父累帯中帯とよばれて

いた)の北縁を縁どる形で分布していることから、高知市のほぼ北半分を占めて存在するこの黒瀬川
亜帯の生成についてのヒントが隠されているのではと思うのである。

このルートは、古くは1930年代前半、旧制高知高校地質学教室山内信雄先生によって「高知北方の
トリゴニア砂岩層(地球 25巻 p.172)」によって紹介されて以来、高知市内から近くにあるため、ま
た宅地造成などで大規模に地表が削り取られたりして、工事中には多量の化石が産出したようで、そ
の通りの採集品などは平田コレクションとして残されている。最近の高知自動車道建設にあたっては、
高知化石研究会会員によって収集されている。

ルート沿いでの主な観察地点は以下のとおりである。

- st-1 現地集合場所
- st-2 高知市和田ガード下の東 二枚貝Modyolus多産 物部川層群
- st-3 高知自動車道跨線橋
- st-4 化石産地物部川層群(自動車道建設当時は採集できたが、今はもう採集できない。)
- st-5 植物化石産地と礫岩
- st-6 長石質(アルコース)砂岩 灰白色長石片を多く含み、この付近の中生界の下部を構成す
る砂岩で、ちょっと見では花崗岩と間違えやすい。
- st-7 断層破碎帯 泥岩は黒色味をおびて鱗片状となっている。
- st-8 蛇紋岩の大露頭
- st-9 角閃岩と流紋岩質凝灰岩
- st-10 流紋岩質凝灰岩
- st-11 お弁当を食べたところ
- st-12 砂岩と礫岩

予定の時刻15時より少し前にst-1へ戻り、晩秋の野山を歩いた快い汗と適度な疲れを感じた一日で
あった。次回を約して、一同それぞれの帰途についた。

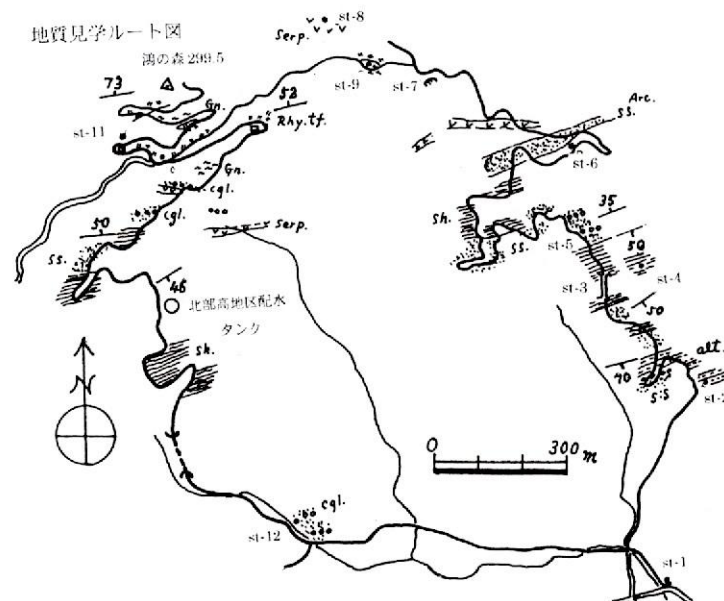


図1 鴻の森ルートマップ(川澤原図)